今月の特集

街の住みここちランキング2026

東北版 第2位

利府町が東北で2位！

もっと先へ、チャレンジ利府！
～みんなの夢がかなうまち～

居住者コメント

・交通のアクセスが良く近隣で生活に必要である店も多く、日常生活をするうえで利便性の良い地域だと感じています。

・車で10分範囲にショッピングモールや入院施設、娯楽、飲食チェーン店も多数あります。県民の森も近く自然豊かで、小学校も中学校も徒歩5分の距離。子どもを育てるには便利です。

・大規模商業施設、総合病院、公共施設、自然の景観等が一通り揃っている。

選ばれる利府町

大東建託株式会社が実施した「いい部屋ネット街の住みここち&住みたい街ランキング2026＜東北版＞」において、利府町が「住みここち」部門で2年連続東北第2位にランクインしました。

このランキングは、東北地方にお住まいの20歳以上の方を対象に、現在お住まいの街の住みここちを調査し、その結果をもとに集計されたものです。

※調査：大東建託株式会社　賃貸未来研究所

町の移住政策
お試し移住体験住宅「e-ハマハウス」

移住体験住宅「e-ハマハウス」は、町外から利府町へ移住を検討する方に一定期間利府町で生活できる機会を提供し、利府町の暮らしを実感しながら地域に慣れ親しむことで、地域住民と移住を検討する方とのミスマッチを防ぎ、町への定住につなげることを目的としています。

移住希望者を対象に最大4泊5日の利用が可能。
所在地：利府町赤沼字丹波沢52番地14

東京から、また宮城へ。帰ってきたのは、利府町。

川村さんご家族
令和8年4月
東京都→利府町新中道
徒歩圏内にすべてがそろっていて、暮らしに、不便がない。

戻るなら、ここだった

多賀城市出身の川村さんは、ご主人の転勤で約5年間、東京で暮らしていました。マイホームを考えたとき、「将来は宮城に戻りたい」という思いが後押しになりました。「車の運転が苦手なので、徒歩圏内にスーパーと病院・小児科、薬局があって、できれば駅も。保育園や小学校も選べるくらいあってほしくて」そのすべてがそろう場所は県内でもわずかで、最後に選んだのが利府町でした。

まちのおすすめスポット

町内のおすすめを聞くと、答えは季節ごとに。「館山公園は春には絶対行きますし、県民の森は秋の紅葉がとてもきれい。人が少ない穴場なんです」冬の加瀬沼公園ではハクチョウにも会いに行くそう。スーパーが多いことも、暮らしやすさのひとつだと話します。

ママたちの「楽しい」をつくる教室

川村さんは今、自宅2階の一室でベビーマッサージなどの教室を開いています。きっかけは自身の産後の経験。「息子が0歳の頃、産後うつのようになって、抱っこもしたくないくらいになってしまって」ベビーマッサージ動画の見よう見まねで子どもに触れてみたところ、「息子も笑ってくれるし、私自身がすごく癒された感覚がありました」そこから学びを深め、同じようにがんばるママへ、伝える側になりました。町内の保育園や子育て広場での体験会でも月1回ほど教室を開いています。

いつかは利府に「ママカフェ」を

「将来、利府にママカフェをつくりたいです」赤ちゃんをゴロンとさせながら食べられる小上がりのあるお店が町内に少なく、松島や仙台まで足を運ぶママも多い。「同じ子育て仲間と、ごはんを食べたりお喋りしたり、学んだり、友達になったり。そんな場所があったら」利府町で育児をするご家族が、「子育て、楽しいなと思える地域づくりを目指したい」そんな川村さんの挑戦が、利府町で始まっています。

移住を考える人と利府町をつなぐ案内人

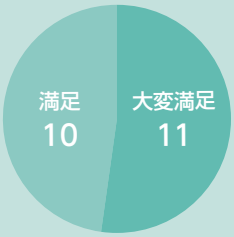
移住コーディネーター
尾川（おがわ） 海斗（かいと）さん
（地域おこし協力隊）

住まいや仕事、子育て環境、地域の暮らしなど、一人ひとりの希望に寄り添いながら、移住に向けたサポートを行っています。また、お試し移住体験住宅「e-ハマハウス」の案内や町内の紹介、移住イベントへの参加、ホームページやSNSでの情報発信などをとおして、利府町での生活をイメージしていただけるよう活動しています。

利用者の声

- 子どもがさまざまな施設を気に入っている。居住先の候補として検討したい。
- 賑わいにあふれていて、商業施設の充実により生活に困らないと感じた。
- 施設や雰囲気が町というよりすでに市レベルだと感じた。

e-ハマハウス利用者満足度



21組
53人の利用
（令和8年8月現在）

子どもがのびのび育つ環境で

パパロさんご家族
令和8年3月
オーストラリア→利府町中央
自然ゆたかで、海に近い。
駅もあって、便利。

子育てにぴったりのまち

オーストラリアで暮らしていたパパロさんご家族は、今年3月に利府町へ移住しました。移住を決めた大きな理由は「子どもがのびのび育つ環境」移住先を検討する中で他自治体も候補に挙がりましたが、「自然が豊かでありながら仙台市にも通いやすい」「公園や子育て環境が充実していること」が利府町を選んだ理由です。

移住前も手厚くサポート

移住前には、町のオンライン移住相談を活用。住まい探しだけでなく、保育園の手続きや入園に向けた相談まで丁寧にサポートしてもらえたことで、不安なく新生活を始めることができました。

自然と四季を身近に

実際に暮らしてみると、駅の近くでも緑が広がり、季節の移り変わりを身近に感じられることが新鮮でした。オーストラリアでは見ることのなかった桜や田植えの風景など、日本ならではの四季を家族で楽しんでいます。

お気に入りスポット

グランディ・21やぺあくる、加瀬沼公園、イオンモール新利府は、日々のお買い物や子どもとのお出かけに利用していて、とても便利で助かっています。

家族の時間がもっと楽しく

町内でよく訪れるのは「ぺあくる」4人の子どもたちを連れて遊んでいます。ほかにもオーストラリアでは海が身近な存在だったので、海が近いのも利府町の魅力。子どもがもう少し大きくなったら、海遊びやさまざまなアクティビティを家族みんなで楽しみたいです。

「自然、子育て環境、利便性のバランスがとても良い町」そんな利府町で、新しい暮らしが始まっています。

移住×まちづくり＝地域おこし協力隊

地域おこし協力隊は、国の制度を活用し、町外から移住した人材が地域で活動しながら、まちの活性化や課題解決に取り組み、将来的な地域の定住を目指す制度です。着任した隊員は各分野で活動しており、まちづくりに寄与しています。

利府おもて梨園・園主　近江（おうみ） 貴之（たかゆき）さん
2019年、地域おこし協力隊として東京都から利府町に移住。“利府梨王子”の愛称で、利府梨の生産と商品開発などを行っている。現在は、地域おこし協力隊を卒業し、利府おもて梨園の代表を務める。

規格外の梨を活用した「金の利府梨カレー」を開発。まちの魅力発信に貢献。

利府おもて梨園
公式Instagram▼

みんなの夢を応援　夢チャレンジ事業補助金

町民が夢の実現のためにチャレンジする事業に対して最大10万円の補助金を交付しています。詳しくは、町ホームページをご覧ください。

のべ43人が利用
（令和8年8月現在）